

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
2007 年 OB 通信第一号

山口大学体育会ワンダーフォーゲル部 OB 会事務局
URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/>
E-mail tabidori@yamaguchi-u.ac.jp

8 月中旬発行

はじめに

セミの声によって夏の暑さが増してきたこの頃、山口ではいい天気が続くようになり、蒸し暑い大変な日が続いています。OB会の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。今年の総会は山口での開催となりました。今回の総会は家族や友達、恋人と楽しもうと言うのがテーマで、ご家族や恋人など幅広く集まろうと考えています。山口在住の方や山口を懐かしく思う方など、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

さて、現役の部員たちも夏合宿に向け、トレーニングに講習会にと頑張っているようです。今年は本部、工学部共に北アルプスに登るとのことです。毎年、台風に泣かされていますが、良い合宿となり、一生に残る思い出になってほしいものです。

連絡先

OB会についてなにかご意見、ご質問等ありましたら、上記のメールアドレスか下記の連絡先にご連絡よろしくお願いたします。

OB 会会長	OB 会副会長
末国 弘司	木山 克彦
事務局 (2007 年末日まで)	
田中 歩希	

目次

第1章	OB会より	1
1.1	「OB会に新しい風を」	1
1.2	東京支部長の交代について	3
第2章	OB会員の皆様へ	5
2.1	お知らせ	5
2.2	2006年会計報告	5
2.3	OB会費納入について	5
2.4	入会、脱会について	6
第3章	現役活動報告 -本部-	7
3.1	執行部近況報告	7
3.2	春合宿結果報告 宝島(トカラ列島)	8
3.3	夏合宿紹介 -黒部五郎~双六岳~槍ヶ岳~常念岳-	10
3.4	アフター紹介 富士山	10
3.5	一年生合宿について	11
第4章	現役活動報告 -工学部-	13
4.1	執行部近況報告	13
4.2	春合宿結果報告 屋久島	13
4.3	2007年度 第43回県内合同ワンデリング結果報告	15
4.4	工学部夏合宿コース紹介	15
第5章	その他	17
5.1	Y.U.W.V. ホームページ	17
5.2	OB会ホームページの利用について	17
5.3	編集後記	17

第1章

OB会より

1.1 「OB会に新しい風を」

OB会長 末國弘司

2007年最初のOB通信をお届けします。早や秋風の立つ頃とはなりましたが、まだまだ残暑の厳しい時節です。会員諸氏は体調に充分留意され、今夏を恙無く乗り切られるよう、ご自愛を切望いたします。

さて、OB会がなんとか形を成してからはや7年目となります。年1回の総会開催を最大イベントに据え、山口を始め福岡、関西、東京と4地区での回り持ち開催をお願いし、昨年の筑波大会から二巡目に入っています。この間、リタイアされるOBが次第に増え、新しい形のOB会が求められようとしています。

仕事に現役の方々は毎日が忙しく、OB会の事は時折気には留めながらも、真剣に考える余裕も時間もなかなか無いのが本当のところでしょう。現在、新しい形のOB会が求められるようになったのも、リタイアするOBが増え始めた時代の産物であろうと、ワングルが刻んできた歴史の長さを改めて感じています。

OB会をリニューアルしても組織を固めるためには、会員が全国に分かれている現状では、それぞれの拠点としての支部が必要です。そこでまず、以前からOB間の交流が行われている東京をお願いして、その組織をそのまま支部にさせていただきました。が、他の地区ではまだこれからです。まずはOB同士の交流が生まれ、盛んになり、支部へと発展するのが理想でしょうが、多少

順序は変えて数人でもOB同士の交流が生まれれば、それから支部を立ち上げ、他のOBを勧誘して支部を大きくしていくできればその地区のOBをほぼ網羅するまでになれば、最高です。

OB同士の交流、酒飲みの懇親から始まるのも結構です。しかしワングルであるからには山行をともにする仲でもありたいものです。なにも若い頃のような山行ではなく年齢や体力にに応じてのハイキング、また家族を交えての交流でも良いのではないのでしょうか。いま、そのような兆しが見えていることは、大いに歓迎すべきです。そうした中から、新しいOB会の形が見えてくるかもしれません。

しかしここで会員に一つだけ心しておいて欲しいことは会員資格の有無についてです。

会員がどのような人と山行しようが、それは自由です。大いに幅広く活動して下さるよう、望みます。ただ、喩えて言えば会員同士での山行は現役部員のフリーワンデリングのようなものです。しかし非会員との山行は部外者との交流となり、OB会の行事ではなくなります。つまり、OB会としては全くタッチできません。シビアなようですが、この区別は認識しておいていただかなければ、会の組織が成り立ちません。つまりOBはオープンな行事には参加されるのは自由ですがOB会としての行事には参加できないということです。言い換えれば、非会員がワングルOBであれば、まず会員になっていただいた上で活動してもらえれば大いに歓迎するという事です。これが会員増にもなり、ひいてはOB会の活動活発化に

もつながります。つまり、まだ会員になっていないOB（特に若いOB）に積極的に声をかけて山行に誘っていただければ、ということです。

くどいようですが、このOB会員の資格の有無については会員一人一人にしっかりと認識していただかなくは、現在のOB会組織は成り立ちません。

OB会の今後の活性化については他にも色々な方法はあるでしょう。今年の総会を契機に、会の更なる発展へ向けて、会員諸氏の英知が集結できればと願っています。

山口で総会

夏を乗り切れば瞬く間に秋。総会の季節がやって来ます。昨年から予告していました通り、今年は山口で開催いたします。場所は「国立山口徳地少年自然の家」(山口市徳地船路)で、期日は会場の都合により、例年よりは後にずれて、11月10日(土)～11日(日)となります。詳細は別途ご案内していますので、そちらをご覧ください。

今回は家族参加型で計画されており、会費も割安になっています。是非ご家族同伴で参加されるよう、お待ちしております。

OB会の名称について

当初からの懸案であったOB会の名称が、昨年の段階でほぼ決まりました。今総会では正式に決定したいと思います。

名称については、毎回OB通信と総会の席上で募集しましたが提案がなく、1昨年、総会出欠のはがきを利用して名称を募集しました。その結果、35人の方々から42の名称があがりました。その中から、僭越ながら当方で5案に絞り翌年の出欠はがきで投票をお願いしました。その結果、「鳳翔会」が投票者(はがき連絡のない未確認を含む)の53.64%を占める59人の支持を受けましたので、今総会でこれに決定したいと

思います。

名称決定に伴う関連条項改正のため、OB会規約の改正案も併せて提案しますので、宜しくご審議ください。

また、名称に併せて「部旗」「ワッペン」の試作品を展示する予定です。総会で異存なければ部旗とワッペンも併せて決定したいと思っています。イベント用のペナントについては現在考慮中です。

ワッペンは、現会員には1枚ずつ無料で配布したいと考えています(2枚目以降は有料です)。この予算措置も併せてご了解をお願いしたいと思います。

役員改正について

また今回は、役員の改選時期にも当たっています。

冒頭にも述べましたが、現在のOB会はどうか組織の形態を成し、全国のOBが数年に1回は近くで開催される総会に出席し易いように、そして世代を越えた交流が生まれ活発化する契機にもなるようにとの願いを込めて、各地区で総会を回り持ちする試みも定着しつつあるように思えます。またそのような評価も頂けるようになりました。

当初から繰り返し述べてきたところではありませんが、現組織の基盤はOB会員が全て会費を払うことにあります。当たり前のようですが、発足当初は600人近いOBに年2回のOB通信をお届けするために数十人分の会費で賄うという、財政的に破綻の危機にありました。これを解消するには、二重構造のようではありますが、会費を払うことでOB会員となる意志を明確にして頂きその方々を対象にOB会活動を展開することでした。これには、卒業後までもワッペンには関わりたくないとの意志を表明されるOBが少なからずおられることも、関係しています。

OB会員を限定した代わりに、まず門戸を広げ

ました。ワングルを途中退部した方でも、その意志さえあれば会員と認めます。また会への出入りは自由としました。言い換えれば会費を払っている間のみ、OB会員であるわけです。

現在、OB会員は約200名でOB総数の約3分の1にしかありません。今後の会発展の一つの要素は会員増、特に卒業後間もない若いOBたちの加入にあります。

もう一つは、今後リタイアされるOBが増えていきます。60代(70代でも?)はまだまだパワーがあります。リタイアされたOBたちが若い世代を取り込みつつ、どのような活動を展開されるか。これも鍵になると考えています。

現在のOB会となり、丸7年が過ぎようとしています。及ばずながら私が会長に指名され、直ちにリタイアされたばかりの木山君に副会長をお願いして、二人で知恵を絞りながら、OB諸氏のご協力を仰ぎつつ、なんとかここまでやってまいりました。

OB会の根幹を成すOB会費(会員資格)については、これまで木山副会長に先頭に立って頂き、厳格に運営してまいりました。OB会の基盤を固める必要性からです。例えば、冷徹のようですが、総会運営に係るOBについてもまず会員たる資格を確認させて頂きました。

しかしながら、この厳密さについては、OBの中には異論もあるようにも仄聞します。我々は、これまでは、現在のシステムがベストであろうと考えて運営してまいりましたが、これからはまた違った形があるかもしれません。OB会も時代に合わせて変わっていくのは当然でしょう。そこで、今回の役員改選を機に、新しい時代のOB会へと脱皮すべく、新しいリーダーに引き継ぐのが最善ではないかと、考えるに至りました。この考えは木山副会長も同様です。

そこで今秋の総会では、今後のOB会のあり方を含め、新しい役員へ引き継ぐべく、真摯な議論をお願いする次第です。

議案の先取りをするような形にもなりました

が、総会までにじっくりと考えていただきたく、あえて触れさせていただきました。

1.2 東京支部長の交代について

東京支部局は松永烈さんの転勤に伴い新支部長として城戸賢嗣さん(昭和49年卒業)に決まりましたので、紙面をお借りして連絡致します。

第2章

OB 会員の皆様へ

2.1 お知らせ

会費未納の場合は自然脱会となっております。会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

また、OB 名簿は通信第二号のみに掲載となっております。納入状況につきましては、2007 年が未納の方と、2007 年まで納入の方にのみ、振り込みをお願いする紙を同封しております。

2.2 2006 年会計報告

2006 年内での収入、支出はつぎのようになっています。

入金	
利子	6
OB 会費	288,000
計	288,006
支払	
OB 通信第一号関連費	91,998
OB 総会関連費	354,770
OB 通信第二号関連費	50,834
事務局費	10,000
計	507,602

2006 年末での OB 会費総額は以下のようになっています。

OB 会費総額

2005 年繰越	1,420,711
2006 年入金	288,006
2006 年支払	507,602
合計	1,201,115

OB 会費総額のうち、前受金は以下のとおりになっています。

年別 OB 会費前受金 2007/8/1 現在

2007 年	360,000	2012 年	27,000
2008 年	254,000	2013 年	19,000
2009 年	177,000	2014 年	16,000
2010 年	112,000	2015 年	12,000
2011 年	63,000	2016 年	10,000

計 1,050,000

累積残預金

2006 年会費総額	1,201,115
OB 会費前受金	1,050,000
合計	151,115

2.3 OB 会費納入について

2007 年分 OB 会費を納入されていない方はお手数ですが、郵便振込にて下記へ納入して下さいようお願い申し上げます。なお、2006 年分 OB 会費が未納の方は自然脱会となっております。

口座記号番号 01530-0-16050

加入者名 山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費 2,000 円

夫婦会員年会費 3,000 円

会費納入は上記の倍数で御支払い下さいますようお願い申し上げます。

2.4 入会、脱会について

初めて入会される方、再度入会される方は会費振込を意思表示とさせて頂いておりますので、お手数ですが、前記の口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。会費未納の場合は、自然脱会となりますので、会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

事務局より

第3章

現役活動報告 -本部-

3.1 執行部近況報告

第47期主将 西村朋子

今年の係

主将・渉外・会計・トレーナー	西村朋子
主務・エッセン	野中美穂
気象・記録図書	田井玲奈
衛生・オッチェントレーナー	鵜飼圭史
装備・山行技術	松村将太

今年は3年生が1人である為、2年生全員に係を任せています。

今年の部員

	1年	2年	3年	4年	計
オッチェン	1	2	0	3	6
メッチェン	0	2	1	0	3
計	1	4	1	3	9

今年の入部者はオッチェン1人のみ、しかも工学部ということで、本学の1年生は入部していません。今年も昨年同様、4月、5月は毎日茶話会を開き、ポスターやピラ配りといった勧誘を6月に入ってもしてきました。しかし、新入生の部活動離れといったこともあり、非常に厳しい状況に置かれています。これからも、ポスターを貼ったり、勧誘のイベント等を行って、部員獲得に励みます。

今年の1月から主将を務めさせていただいております、経済学部経済法学科3回生の西村朋子と申します。

今年の執行部は3年生が私1人ということで、部をしっかりとめていけるか、執行部交代前は相当不安でしたが、1月から3月にかけての春合宿やスキー合宿等の行事も無事に終わらせることができ、現在まで何とか頑張っています。色々な行事をしていく上で、失敗もたくさんありましたが、とても貴重な経験だと思ってやっています。

新執行部の特色として、色々な形のFWを始めことにしました。具体的に言うと、私の今までのワングル活動では、FWというと、登山しかありませんでした。しかし、自然と親しみ、楽しむ為には、何も登山をすることだけがそうではないと思い、それなら色々やってみてもいいのではと考え、春合宿でやるようなロードワンや、浜歩き等何でもありなFWをすることにしました。もちろん登山もします。こうして少し変えたことで、部員がよりワングルを楽しんでくれると良いと思います。

ところで、現在までの新入部員についてですが、本学が1人も入っておらず、工学部1人のみといった状況です。茶話会やピラ配りを毎日行い、ポスターも写真などを載せ、活動内容が分かりやすいものを作って貼っているのですが、サークルに入ってしまう新入生が多く、なかなか入部希望者がいません。このまま、今年1年生が入らず、来年も同じ様な状況となると、部の存続が怪しくなるのは必至だと思います。私の力不足か、

時代の流れか一概に言えませんが、最善を尽くしてきたものと思っています。この厳しい状況を脱する為にも、今後も頻繁にオープンワンデリングやバーベキューなどを開いて、勧誘活動を行っていかうと考えています。

これからの第47期執行部の行事を何事もなく行っていくために、部員数が少ないからといって、決してワンゲル活動の質を落とすことなく、また新入部員の獲得に励み、より一層頑張りたいと思います。

3.2 春合宿結果報告 宝島（トカラ列島）

PL 西村朋子

この度、春合宿のPLを務めさせていただきました、経済学部経済法学科3回生の西村朋子と申します。2007年春合宿はトカラ列島最南端の有人島、宝島で3泊4日のサバイバルを行いました。食料は基本的に現地調達とし、朝のみ米を食べ、P-menは釣りに力を注ぎました。

現地の方とも仲良くなり、合宿終了日の夜には一緒にお酒を飲み交わしました。合宿中に会った人々の優しさ、温かさは、私たちが日頃そういったことに慣れていないせいか、とても心に沁み、今回の合宿でP-menはきっと何かしら学んでくれたことと思います。

今回の春合宿でPLをしたことで、たくさん失敗もしましたが、とても良い経験になりました。P-menが楽しんでくれたようなので本当に良かったです。

AP1(3/18) 長い鈍行の電車の旅が始まりました。午前7時半、湯田温泉駅で先輩方にたくさんの差し入れをもらい、見送りを受けてから鹿児島駅に到着したのは午後8時でした。P-menはトランプや読書など思い思いのことをして過ごしました。鹿児島駅から桜島フェリーターミナルまで移動し、そこでピバークしました。南に来たというのに、風があつて寒かったです。

AP2(3/19) 天気が心配でしたが、23:50のフェリーに乗船することを宝島の役場に連絡したところ、この日のフェリー欠航を知らされました。翌日に延期ということになり、この日は桜島フェリーターミナルに留まり、皆暇を持て余しました。また、ターミナル内でうどん屋を営まれている社長さんと出会い、大変よくしてもらいました。

AP3(3/20) フェリーの出航を確認し、トカラ列島への旅の窓口である南埠頭ターミナルへ移動しました。乗船時間までたっぷり時間があったので、鹿児島島の観光をしたり、差し入れのバドミントンを楽しんだり、読書をしたりゆっくり過ごしました。鹿児島から宝島まで、フェリーで約13時間。フェリーは意外と乗船客が多く、設備もなかなか立派なものでした。乗船後すぐに消灯となり、長い船の旅が始まりました。

AP4・1日目(3/21)

宝島前籠漁港	13:00 着
宝島出張所	13:30 着
大籠海水浴場	14:48 着

天候が悪く、海が時化た為、船が大きく揺れ、軽く船酔いになりました。宝島に着いた時は土砂降りの雨で、ザックと差し入れを持って待合所へ避難しました。私たちが到着するまではカラカラに晴れていたと出張所の方に言われ、幸先の悪い合宿スタートになってしまいました。

テン場は草が生えており、色々な植物がありました。近くには、アダムの群生があり、また砂浜の先にはエメラルドグリーンの入り江があり、とても綺麗でP-menのテンションも一気に上がりました。

テント設営をして、この日の食料を獲得する為に、テン場周辺で野草を探し、この日は、アザミをとってその茎と葉を味噌汁として食べました。けっこう茎が人気で、食べやすくおいしかったです。就寝時間まではトランプをして過ごしました。

2日目（3 / 2 2）

食料調達開始 8:00

食料調達終了 16:00

朝は雨が降っており、朝エッセンをとってから、1時間程待って釣りに出かけました。皆、釣りがしたくてうずうずしていました。またこの日、隣にテントを張っていた1人旅のお兄さんと仲良くなり、合宿終了から宝島を離れるまでよく行動を共にしました。釣りはフェリーの到着した、前籠漁港の堤防の辺りで行いました。エメラルドグリーンの海だったので、上から海に漂う魚の群れがはっきりと分かり、これは釣れるだろうと期待して釣り糸を垂らしていましたが、一向に釣れません。

約4時間釣りの時間をとりましたが、何回かバラしたものの、全体で3匹釣れ、塩焼きにしておいしく食べました。また、野草も採取し、前日と同様アザミの味噌汁を作り、さらにツワブキを醤油、砂糖で煮てキャラブキを作りました。ツワブキは、過去合宿でサバイバルをされた先輩から、食べられるものではない、吐いたなどと聞いていたので食べられるか不安でしたが、多少苦さが残ったもののおいしく、皆満足していました。明日こそは大漁のエッセンにするぞという思いを抱きながら就寝しました。

3日目（3 / 2 3）

食料調達開始 8:00

食料調達終了 16:00

絶好の釣り日和です。青空が広がり、島の中心部辺りにあるイマキラ岳という山がよく見えました。前日の夕エッセンの際作ったキャラブキの残りをご飯と一緒に食べ、いざ釣りへ。

約5時間釣りをしましたが、30～50センチの魚が5、6匹、10～20センチの魚の群れも目と鼻の先にいるのを堤防から見る事ができました。そういった魚をターゲットにし、辛抱強く釣りを続けた結果、この日は大漁となりました。

ウマヅラカワハギやその他30～40センチの

魚が6匹釣れ、30センチ以下の魚も6匹、さらにウツボを獲り、計13匹の収穫となりました。魚の身がとても新鮮で、刺身として食べたいくらいでしたが、塩焼きにしました。ウツボは焼くのに時間がかかり、しかも大しておいしくないという、残念な結果に終わりました。身がたくさんあり、空腹であった為、魚のおいしさを初めて味わったような気がします。野草はまたツワブキでキャラブキを作りました。かなり辛いものになってしまいましたが、エッセンは4日間で一番満足なものでした。

4日目（3 / 2 4）

食料調達開始 8:00

食料調達終了 12:30

とうとう最終日、これでサバイバル生活も終わりかと、嬉しいような寂しいような気持ちでまた釣りに出かけました。風が強く、開始からわずか15分で布バケツが飛ばされてしまいました。この日はあまりアタリが来ず、釣りにも少し飽きてしまったP-menはポーっと釣り糸を垂らしていました。昼エッセンまでに釣れた魚は約40センチのマサバと30センチのウマヅラカワハギでした。最後のエッセンはこれらの魚を分けて食べ、入り江に向かってストームをし、ビールで乾杯し、サバイバル生活を終えました。差し入れの食料を食った後は、島の温泉に浸かり、1週間分の汚れと疲れをすっかりとって、地元の方々との楽しい夜を過ごしました。

ワングルに入部した動機の一つとして、サバイバルをしてみたいという思いが個人的にあったので、今回の春合宿でそれを実現できたことは、非常に嬉しく、良い経験になりました。

しかしこうして無事合宿が終えることができたのは、先輩方から戴いた色々なアドバイスのお蔭であり、P-menがしっかりついてきてくれたことによるものだと思います。計画段階において先輩方には多大なご迷惑をお掛けしましたが、後輩が皆それぞれ楽しんでくれたようであり、それが私にとって一番喜ばしいことであるのは言うま

でもありません。この経験を活かし、これからのワンゲル活動をより充実したものにしていきたいと思えます。

3.3 夏合宿紹介 - 黒部五郎～双六岳～ 槍ヶ岳～常念岳 -

PL 西村朋子

この度、夏合宿のPL・責任者を務めさせていただきます、西村です。今年の夏合宿は北アルプスを6泊7日予備3日で縦走する予定です。北は初めてなので、迫力のある山々を満喫できると良いです。

今回のメンバーは1年生1人、2年生3人、3年生1人、4年生1人の計6人です。4年生の参加は先輩たつての希望で、PLとして先輩に頼ることなく合宿をやっていきたくと思っています。

コースは富山の折立から始まり、黒部五郎のカール、双六岳の大パノラマ、日本で第5位の高さを誇り、ワンゲラーなら誰も一度は登ってみたいと憧れる槍ヶ岳の他、草原やお花畑などゆったりと広大な山並から、岩峰のある男らしい山々と、幅広く楽しめると思えます。きついアップでの疲れも、いったん稜線にでるとすぐに吹き飛ばしてしまうくらいの素晴らしい景色です。また、長い梯子や鎖場など危険な場所もあるので十分注意しなければなりません。

PL・責任者として、この合宿を絶対に事故のないよう終わることを望みます。その為に、しっかりと事前準備をし、トレーニングに励み、P-men全員を無事に下山させるよう最大限努力したいと思います。まだアルプスに行ったことのないP-menには、初めて見ることになる景色、自然を十分堪能し、感動し、一生の思い出を作ってもらいたいです。北アルプスへ行って良かったなと全員思えるような夏合宿にしたいと思います。

3.4 アフター紹介 富士山

PL 田井玲奈

今回、アフターのPLを務めさせていただく田井と申します。今年のアフターでは、日本最高峰の山として知られる富士山に登ります。実は、「富士登山を体験してみたい」というのが、自分がこの部活に入る動機でした。存分に楽しんでこようと思います。アフターは、アプローチ1日、山行2泊3日の予定です。

A P まずアプローチは、松本駅から御殿場駅まで電車で移動し、御殿場駅からバスを乗り継いで須走口新5合目へ向かい、ここの山小屋で1泊します。

1日目 1日目は須走口新5合目から7合目まで登ります。須走口は、2000mからスタートするので、森林地帯を緩やかに抜けていきます。花も様々に咲き乱れ、鳥の声をずっと聞いていられます。6合目からは結構急ですが、焦らなければ大丈夫でしょう。観光地と化した他のルートと違い、静かな本当の富士山の自然を楽しみながら登れます。砂地になったかと思うともう7合目です。この日は7合目の山小屋で1泊します。

2日目 2日目はそこから山頂を目指して出発。富士山頂の様子、富士吉田登山道の様子、須走り下山道の様子などが見られ、変化が多く退屈しません。道路も良く整備され、歩きにくい岩場や、砂礫の滑りやすい所もほんのわずかです。山頂に着くと、お鉢めぐりのコースを通り、富士宮口山頂に向かいます。富士宮口山頂の山小屋で1泊し、3日目はここから富士宮口登山道を、砂走りを通して下山します。これでアフターは終了です。日本に生まれた者として、日本の象徴的存在に一度行ってみるのは非常に良い経験になると思います。落ち着いた中身の濃い富士登山が楽しめるよう頑張ります

3.5 一年生合宿について

主将 西村朋子

一年生合宿は例年、上級生がアフターへ行き、その間一年生だけで合宿を行うという毎年行っている行事ですが、今年は一年生が一人ということで、実現することは困難な為、一年生合宿は行わないことにしました。その代わり、一年生にはアフターの方へ参加してもらおう予定です。来年以降、また行われることを心から望みます。

第4章

現役活動報告 -工学部-

4.1 執行部近況報告

第45期主将 平村健勝

主将・会計・渉外・トレーナー・装備	平村健勝
副将・衛生・記録図書	須戸康弘
気象・エッセン・サブトレーナー	岡川達也

工学部と宇部高専の主管で行った第43回県内合同ワンデリングが無事終わり、現在、夏合宿に向けて準備を進めています。

前述した通り、部員が少ないので工学部の2年生に対して工学部の新入生歓迎フェスティバルなどで勧誘もしましたが、残念ながら入部希望者はいませんでした。少ない人数だからこそできることもあるので、時間的、金銭的な負担を減らして、部員同士で協力し工夫しながら運営しています。

また、部員数だけでなく、使用するのに十分なテントがない、現役部員にリーダー資格者がいない、現役部員にアルプス登山の経験者がいないなど、現執行部には様々な問題があります。何とか解決し、学生生活における素敵な思い出を見つけることができたら良いと思っています。簡潔ですが、工学部の近況報告は以上です。

4.2 春合宿結果報告 屋久島

PL 須戸康弘

今年度の春合宿でPLを務めさせていただきました、工学部3回生の須戸康弘です。今年の合宿は屋久島でのトレッキングと山行を予定していま

したが、部員の人数の関係から宮之浦岳に登る行程をカットしたコースになりました。三日間と合宿にしては短いですが、屋久島での自然を満喫できる合宿になりました。

AP1(3/24) 合宿のAPといえばやはり青春18切符を使った鈍行の旅。宇部の東新川駅から鹿児島駅まで電車移動の一日となりました。去年経験してはいるのですが、なかなか精神的にきついものがあります。それでも、本学から差し入れをしてくださったので感謝感激です。この場をお借りして差し入れをしてくださった方々ありがとうございました。この日は、桜島フェリーターミナル内で一泊し、明日の屋久島行きのフェリーに備えました。

AP2(3/25) 鹿児島の埠頭から高速船トッピーを使い屋久島へ。高速船には初乗車でしたがそれなりに快適で、約2時間弱で屋久島の安房港に到着しました。ここから10分歩いたところにある番屋峯キャンプ場で一泊。この日の夜、前線の影響で雨風が強く、テントが水没状態になり徹夜で徐水作業に追われました。屋久島は年間降水量が4500mmと半端なく多く、その実態を知ることができました。

1日目(3/26) 昨夜の雨が朝になっても降り続いていたためこの日は沈となりました。朝、起床すると体中が湿っていて気持ちの悪い目覚めとなりましたが、天気は午後からだんだん晴れてきたので、テント内にあるものをすべて外へ出し乾かせました。気温も上昇し、海にも入ることができたので楽しい一日となりました。

2日目(3/27)

6:35	荒川登山口着
7:33	小杉谷休憩舎着
9:54	大株歩道入口着
13:06	縄文杉着
13:37	高塚小屋着
コースタイム	4:45

待ちわびた合宿が始まりました。キャンプ場から少し歩いた所にある安房バス停に向かい、そこからバスに乗って荒川登山口へ移動。登山口には、60人を超える登山客、観光客がいて、トイレで行列をつくっていました。トイレは我慢し早めに登山届けを出して、出発。

平坦なトロッコ道をひたすら進んでいきます。このトロッコ道は現在も木材運搬などに利用され、この先にある大株歩道入口まで続いています。大株歩道入口からは、トロッコ道はなくなり、急斜面の登山道へ。木造の階段を登っていくとウィルソン株に到着。目の前には、胸高直径4.4mの見事な切株が立ちはだかっていました。写真に納め、さらに進んでいくと夫婦杉、大王杉と樹齢1000年を超える屋久杉が現れ、その誇らしげさに見とれてしまいました。

そして、本日のお待ちかねの縄文杉に到着！「な、なんてでかさだ・・・」。写真で見るとよりさらなる迫力感があり、圧倒されました。さすがは、屋久島最大級をほこる屋久杉。自然の歴史が感じられるひと時でした。記念写真を取り、ここから少しあるいたところにある高塚小屋で一泊。他の登山客もあり、そのほとんどが学生だったことに驚きました。疲れた体を休め明日に備えました。

3日目(3/28) この日は雨のため沈。高塚小屋で丸一日過ごす日となりました。

4日目(3/29)

6:00	高塚小屋発
6:02	縄文杉着
7:39	大株歩道入口着
9:57	辻峠着
11:18	白谷山荘着
12:38	白谷雲水峡バス停着

見事な快晴になりました。お世話になった高塚小屋の掃除を済ませ出発。朝早くから、縄文杉が見られました。目にしっかりと焼付けいざ白谷雲水峡へ。途中までは初日のコースとほとんど変わらず、下り道をさくさく進んで行きました。トロッコ道途中にある楠川分かれの分岐から白谷雲水峡コースへ突入。ここから急斜面をのぼり辻峠から太鼓岩までピストン。

太鼓岩は、映画「もののけ姫」の岩屋のモデルとなった場所で、辺りは360度見渡せ、宮之浦岳などの山々が一望できる素晴らしい場所でした。他の登山客に写真を撮ってもらい、しばらくはこの景色を堪能していました。来た道を引き返し進んでいくと、もののけの森に到着。

この場所も、「もののけ姫」のモデルとなった所で、倒木や切り株、岩、樹木まで苔に覆われたこの静寂な森は、映画のワンシーンを髣髴させるかのようでした。この神秘的な森をしばらく行くと白谷山荘へ到着。ここで一泊の予定でしたが電話がつながらず、この先にある駐車場までエスケープしました。それでも途中には、花崗岩の大岩の間を勢いよく流れ落ちる美しい滝や沢を見ながら、白谷雲水峡を楽しみました。駐車場にあるバス停で宮之浦に行き、下山連絡をして合宿を終了しました。

最後に、初PLをやらせてもらいましたが、色々不備があり先輩方や同期に迷惑をかけてしまったこととお詫びします。また、不出来な自分に先輩方がアドバイスしてくださり、本当にありがとうございました。

4.3 2007年度 第43回県内合同ワンデリング結果報告

実行委員長 平村健勝

5月3日～5日にかけて、下関市菊川町の菊川自然活用村で第43回県内合同ワンデリング in 華山を行いましたので報告します。

今年の県合は、実行委員が5人で参加者が20人と、県合史上最小の人数であったため、周りからは「本当に開催できるのか？」と県合自体の存続が危惧されていました。私の中で県合は年間行事の中でも一番楽しみにしている行事なので、「絶対に県合は成功させよう」と実行委員全員で試行錯誤しながら、「参加してよかったと思える県合」、「思い出に残る県合」、そして「参加費用を今まで通りに抑えること」を目標に企画しました。具体的には、ドライバーの数を最小限にして費用を抑える、飲みの際の見回りの配置や時間を工夫して飲みに参加できる実行委員を多くする、またミーティングではホワイトボードを使って効率よく進めるなど、様々な工夫をしました。

1日目は、昼に集合して夕方からバーベキュー、その後は飲み。2日目は、2ブロックに分かれて華山へ登山。その後、運動会とキャンプファイヤーを行い、飲み。3日目はプレゼント交換とメッセージ交換をして解散というスケジュールでした。

当初、雨天が心配されており、山行ができるかどうか心配でしたが、降水確率70%であったにもかかわらず県合中に雨は一滴も降ることはありませんでした。これは実行委員が力を合わせて成功させようと努力したおかげだと思っています。華山からの眺めは曇っていたためあまり良くなかったとのことですが、雨が降ると1日中飲みになってしまう上に、片付けも大変になるのでとても助かりました。

県合では不備な点も多くありましたが、参加者から「楽しかった」という声を聞くととても嬉しい気持ちです。最後に、開催するにあたって、工

学部と宇部高専の実行委員、様々な助言をしてくださった先輩方、お忙しい中遠方からお越しくださったOBの方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

4.4 工学部夏合宿コース紹介

P L 平村健勝

この度、2007年度の夏合宿を務めさせていただきます、平村です。

例年通りならば、1年ごとに南アルプスと北アルプスを交互に計画していたのですが、現役部員は誰一人として南北のアルプス登山を経験した事がない上に、昨年は工学部単独での夏合宿ができず本学と合同で行いました。そのため、南北を交互に行うことに固執せず、先輩方のアドバイスや登山情報誌などを参考にして、いくつかのプランを考え、最終的に部員全員で話し合い、今年の夏合宿は北アルプスの4泊5日のコースに決定しました。

さて、コースですが、上高地から徳沢、蝶ヶ岳、常念岳、燕岳、中房温泉への縦走を計画しています。コース上にはきついところもありますが、蝶ヶ岳からは左手に槍ヶ岳を眺めながら稜線の上のお花畑を歩くといった、北アルプスの自然を満喫できるコースです。

自分にとっても現役部員全員にとっても初のアルプス登山です。安全面には十分配慮して楽しみたいと思います。

第 5 章

その他

5.1 Y.U.W.V. ホームページ

管理者 平村健勝

山口大学ワンダーフォーゲル部のホームページをご紹介します。ホームページでは現役部員の活動状況や最新情報などを掲載しています。また、OB 通信も掲載しているので是非ご覧下さい。

Y.U.W.V. ホームページ URL

<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tabidori/>

5.2 OB 会ホームページの利用について

OB 会のホームページの利用方法についての資料を巻末に記載しているのでご覧ください。

5.3 編集後記

編集 田中歩希

毎年、OB 通信は L^AT_EX で作られているので、今年も同じように作って見たのですが、思ったよりも大変でした。私は元来、パソコン関係は苦手なので苦労しました。OB の方に見やすいと思ってもらえたら幸いです。

去年に続き今年も部員数が少なく、私も心配になっているところです。現主将も言っていました。時代の流れなのか、部員の頑張りが足りないのかはわかりませんが、これから大変だと思います。しかし、悪い話だけがあるわけではありません。近年は、県外のワンゲルとの交流が活発に

なっています。去年から、新たに中国合同 W が行われたり、他の県の行事に呼ばれたり、他大学に遊びに行き来したりと、県外のワンゲルと関係が密になってきています。県内外のワンゲルと一緒に頑張り、この低迷期を乗り切りたいと思います。